

延宝5年（1677）の人口等

家数9（うち役家6） 浜松城王手門から一里十一町五間【浜松町数村数家数田地高間尺之帳】

I 六所神社

○【浜松史神社名監】によれば安政4巳年(1857)9月朔日、庄屋影山徳左衛門・地主影山庄八再建の棟札がある。

○ 祭神

天之御中主命（あめのみなかぬしのみこと）

伊邪那岐命（いざなぎのみこと）

伊邪那美命（いざなみのみこと）

天照大御神（あまてらすおおみかみ）

月夜美命（つくよのみこと）

須佐之男命（すさのおのみこと）

○ 若宮八幡宮

品陀和気命（ほむたわきのみこと）を祭神とする若宮八幡宮は、昭和36年9月、室戸台風により社殿倒壊したので、御神体は六所神社に奉遷した。

II 六所神社の祭典 ①拝殿正面の表示より

20・12・1

長鶴町氏子総代

斎藤市郎

平成21年(2009)

長鶴町六所神社祭典予定表


1	(1)注連縄づくり	20年12月31日(水)10時
	(2)のぼり立て	20年12月31日(水)10時
2	新年祭	21年1月1日(木)10時
3	祇園祭	21年8月9日(木)10時
4	秋祭り	
	(1)のぼり立て	21年10月10日(土)10時
	(2)大祭	21年10月11日(日)12時

上記のスケジュールで1年間の行事を行いますので、各自徹底しますようお願い申し上げます。

尚 諸般の都合により時間の変更もありますので御了承願います。

平成21年度のお札を新規に購入したい方は、下記担当年番に申し出てください。

21年度担当年番 5名の氏名と自治会の組が記載されている。

<p>手打ちそば作って 初詣で客もてなし</p> <p>東区長鶴町六所神社</p>	<p>地元の神社へ初詣で訪れる人たちに年越しそばを振る舞おうと、浜松市東区長鶴町の住民ら約五十人でつくる長鶴町の鶴友会が年越しそばを作り、約百三十食分を用意する。</p> <p>同会の斎藤正司会長は、召し上がってくれた人たちに「おいしい」と</p> <p>鶴友会は十三年前から住民の親睦と地域の活性化を目的に、バーベキュー(たこ揚げ)などのイベントを催している。</p> <p>年末には毎年地元の六所神社でおしるこや甘酒を作って振る舞ってきた。手打ちそば作りは昨午が二年目。</p>
	<p>会員たちは協力し準備万端整えて元日を迎えたいと意気込んでいる。</p>

Ⅲ 担当年番が世話するお札

① 大神

天照大御神のこと。

歳神様

年の初めにお迎えする神様。門松または玄関の正月飾りを通り、鏡餅が備えてある所に鎮座する。各戸にその年の幸せを運んでくれる。

恵比寿(須)様

厨房の神様。台所に大黒様と一緒に祀りする。台所に潤いを与えてくれる神様。

門札

祓戸四柱大神のこと。四柱は、四神・四方の神家の四方を清め悪神・悪霊を祓ってくれる。

平安京は四神を祀った。官位 福祿 無病 長寿(幸福と繁栄)



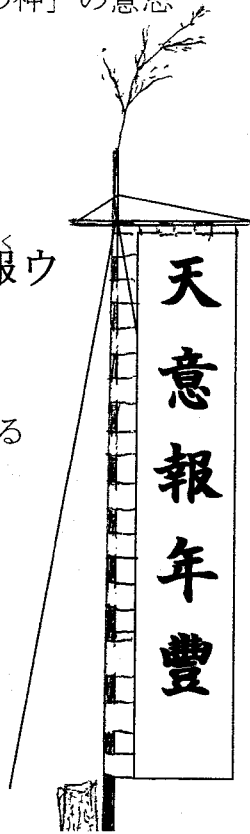
IV 新年を祝い奉納する のぼり

「天意報年豊」

- ・天意：「森羅万象の神」の意思
- ・年：みのる
- ・豊：「豊」と書く

てんい ねんほう むく
天意 年豊ヲ 報ウ

自然の神が
豊かなみのりを
与える



「神威滋景福」

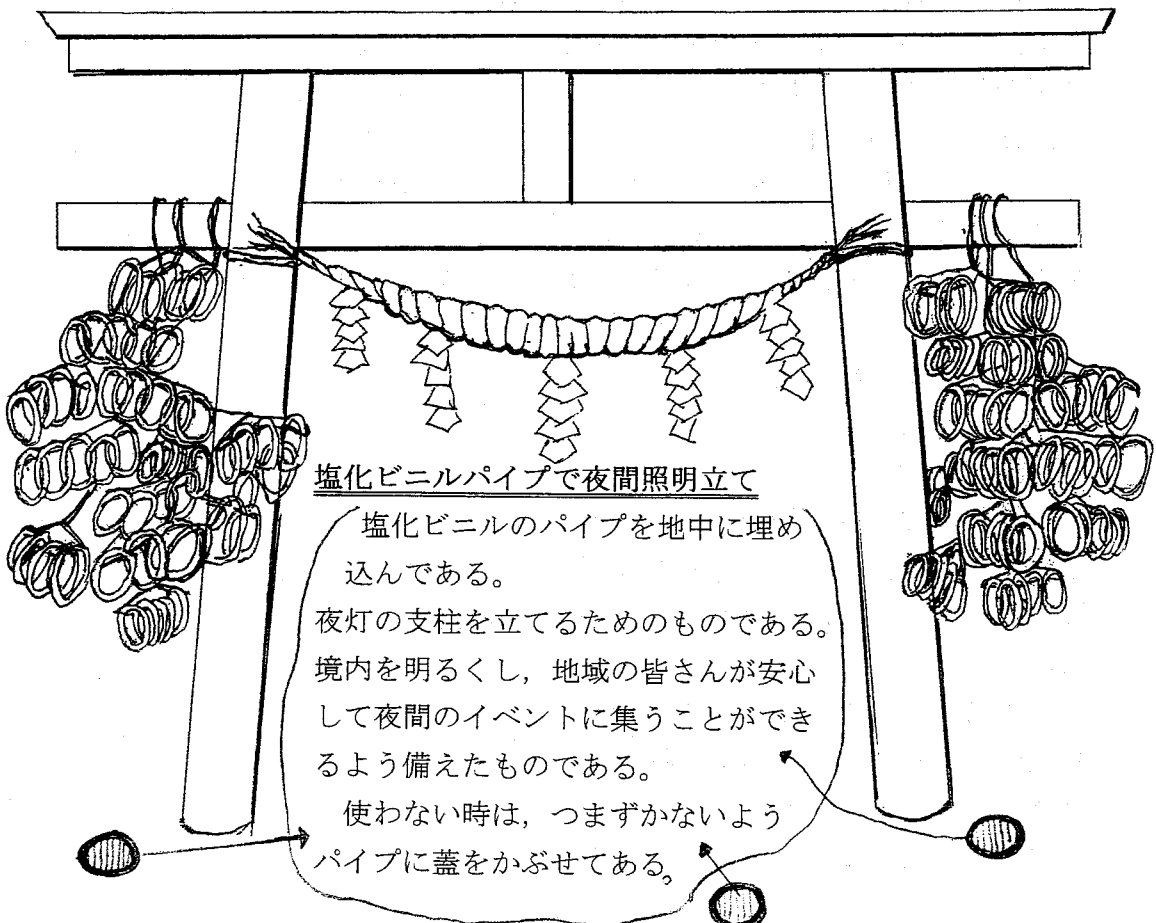
- ・神威：威光
- ・景福：大きな幸せ

しんい けいふく うるお
神威 景福ヲ 滋ス

神の威力が
大きな幸を
潤す



V めずらしい注連縄



VI しめなわ 注連縄づくり

以前は元日の朝、氏子が集まり六所神社の注連縄づくりなど新年の準備をした。最近は大晦日に注連縄づくりをするようになった。新藁で作った小さい輪を5～6個束ねたものを幾つも作り、それを繋いで鳥居の左右に掛ける。大勢の人が集まって作るめずらしい注連縄である。昔、手枷 足枷 首枷など刑罰の道具があった。悪事を働く者の行動の自由を奪うための道具である。「泥棒を縛るぞ～」「疫病を残らず捕まえるぞ～」と災難や疫病が家や村に入り込まないことを願って作られ、注連縄づくりが伝承されてきた。長鶴独自の注連縄づくりである。

VII 祇園祭

インドの祇園精舎の守護神である牛頭天王（ごずてんのう）は、すべての疫病神（病魔を蔓延させる悪神）を残さず食べ尽くしてしまうという。この牛頭天王信仰は疫病除けの神様として 中国に伝った。昔は、赤痢、疫痢などの疫病が発生しても、その治療法も予防法もなかった。また疫病発生の情報も皆無の時代であるから、疫病は知らぬ間に村に入り、突然猛威を振いだした。疫病に侵され、一家が全滅し、村全体が壊滅してしまうこともある。

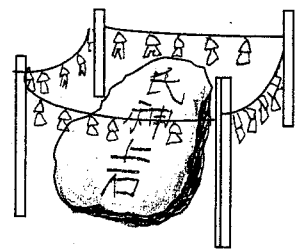
当時の人々は、恐ろしい病魔を退散させるすべもなく、恐怖と不安の闇の中に閉じ込められた。人智をはるかに超えた大きな力によって、疫病は蔓延する。病魔の退散をひたすら神に祈るほか、なすすべはなかったのである。

中国では村境に牛頭天王を祀り、爆竹やドラを鳴らして、病魔が村へ侵入しないように祈ったという。

牛頭天王の信仰が中国から日本に伝来したのは、平安時代初期といわれる。日本古来の疫病防除の神である須佐之男命に習合され全国各地で祀られるようになった。食中毒や疫病が発生しやすい夏になると、京都の八坂神社をはじめ全国各地で祇園祭が行われる。

天王町の大歳神社のもとの神社名は、明治維新まで牛頭天王社であった。明治 6 年 4 月 17 日 一村一社の制度になり改称された。（廃仏毀釈）

このように、牛頭天王社あるいは 天王宮などと呼ばれていた神社が、明治維新の神仏分離令により、それまでの神社名は廃され、現在は異なった神社名になったが、祇園祭は引き継がれている。先人の苦労を偲ぶとともに、町民が楽しみながら親睦を深めるための行事として催される。



氏神上石

VIII 氏神上石

拝殿の左前に「氏神上石」の文字を刻んだ石が置いてある。祭礼の時などに、降りてきた神々が鎮座する石である。縦 65 cm 横 40 cm ぐらい。地面に埋もれている部分があり厚さの程は分らない。

この石を持ち上げる力くらべの競技に使ったらしい。神社の祭礼などで、神の意を慰めるため、あるいは祭礼を賑わし神に喜んでもらうための催事である。松小池町の松之浦神社にも「力石」といわれる石がある。長鶴町の六所神社と似たような催事を奉納したのだろう。